

## 講評

### 千住博

今回多彩な作品が集まり、見ごたえのある結果となった。大賞の岩崎拓也さんの作品は、まるで未踏のジャングルの奥深く、定点観察の為置かれたカメラに囚らざるも映り込んでしまった一コマのごとくて、興味深かった。左側の帯がフィルムの緑の様でもある。色一つ一つが実に多様で多彩な表情を持ち、例えば沼の緑は沼以外には考えられないような色をしている。緑色の描き分けは色の中で最も難しい。それを見事に手中に納め、立派だ。この樹海にはまるで似つかわしくない違和感のある赤い人物は、森の奥に潜む手に負えない自然に挑みかかっている現代人の姿だろうか。他の作品もコロナ禍だからこそ自然や命に対峙する画家の姿勢が興味深かった。自然との共生、不安感、孤立…様々な現代人の吐露が、疫病に脅かされるこの2020年という時代とはどういう時代であったかを雄弁に物語っていると思った。

### 布施英利

「良い審査ができた」

今回、自分が高く評価したのは、大賞となった岩崎拓也さん、優秀賞の久住俊之さん、それに布施賞の久保田敬一さんの作品だったが、なぜか、それらの絵画の第一印象には「違和感」があった。岩崎さんの『秘密の花園』はそのどぎつい色彩に、久住さんの『祈り』は素朴な描き方に「ふんっ」と鼻で笑って終わりだった。久保田さんの『自然』に至っては誰も票をあげず、一次の審査で落ちて廊下に運ばれるところを目にして「これ、消えて良いのか、惜しい!」と評価が一変した(好きになった)。逆に、最初の印象はまずまずだった作品は、審査の過程で何度も見ているうちに魅力が褪せていった。良い絵との出会いには、いろいろな形があるが、今回は、最初の違和感が逆に、絵の魅力・絵の力に変貌した。受賞展を見る方にも、我々が選んだ作品に対して、同じように、最初は鼻で笑ったとしても、再度見返して、その魅力を発見していただきたい。..良い審査ができたと思う。

### 永井龍之介

岩崎拓也 瑞々しい森の中、“秘密の花園”を発見した喜びを爆発させる男の姿を、緑と赤の強烈なコントラストで描いた絵画は、エネルギーに満ち、作者の絵に対する熱い思いが伝わる。構成、補色の生かし方など粗剛りだが魅力があり、待望久しい本格派油絵画家として将来に期待したい。久住敏之 現代的宗教画。シンプルな描写であることで厳かな雰囲気は端的に伝わる。上手下手を超えた不思議な絵画世界が新鮮だ。宮下由夫 油彩ドローイングで対象の本質をズバリつかみ、必要以上に描きこまないことで、鮮度が保たれている。熟練度は高い。カノウジュン 達者な描写力と構成力、深い教養に裏打ちされたモチーフのセレクト、それらを含む洗練されたデザインセンスが光る。田中正、林寿朗は公募展上位賞常連の実力者。両者の画家としての力量は十分で、毎回審査員をうならせる内容は、本物の証だ。応募サイズ30号は最も力量が出せるサイズで、全体のレベルはこれまで最も高かったと思う。

### 山下裕二

この公募展の審査に、今回はじめて参加させていただいた。他の審査員3氏は私が信頼する旧知の方々だから、きっと充実した審査ができると思い、喜んで引き受けた。応募規定は基本的に30号。他の公募展ではもっと大きいサイズを許容する場合が多いが、ほぼ等しいサイズの作品が揃って、この規定のありようは成功したと思う。大賞を受賞した岩崎拓也『秘密の花園』は、正直言って、予備審査の段階で私は高く評価していたわけではなかった。だが、他の委員から強く推す意見が出てからあらためて注視して、大賞に相応しい作だと思直した。優秀賞の2作は、いずれも自らのスタイルを確立した作家による、レベルの高い作品である。そして私がかもっとも注視したのは、個人賞を与えた村山健司『山里』である。技術的には未熟なのだが、絵を描く喜びがストレートに伝わってきた。左下の山羊がほんとうに素晴らしい!

### 諏訪敦

初めて審査に加わって驚いたのは、新装になったこのコンクールの方向性が未確定だったことだ。プロからアマチュアまで玉石混交。作品傾向は、日本画、デザイン、版画、現代アート系、公募団体系、フェティッシュ系、そして生涯教育の成果など、まるで国内の絵画事情を網羅するよう。そこで、分野ごとの到達点を押し測りつつ評価しなければならなかった。特に注目したのは、岩崎拓也、三平浩太、三代宏大だった。まだ属性は不明瞭だが、いずれも絵画の未到地点を模索しており、現代アートの領域で活躍が望めそうな面々だ。その中で岩崎拓也が評価を集めたのは、渾身作として説得力が高かったためだろう。非現実的な色彩の森の中で、この世界から切り離された青年のダイブを、偶然に目撃してしまったような幻惑と、このライブ感は新鮮だ。一方、三代宏大は、若手ペインター界隈で強烈な個性をもって存在感を示しつつあるが、応募作が彼のベストではなかったことが悔やまれる。金澤隆二を個人賞に選んだのは、遡暦を過ぎてなお、絵画で社会問題を扱おうとする意思を保ち続けていること、また、独学で高い描写レベルに達した修練の日々へ賛辞を贈りたくなったからだ。未だ見ぬ才能が、彼らの作品を見て反応し、次回応募してくることを期待する。

# GENERAL INVITATION 2020

# 公募 2020 日本の絵画



千住博



山下裕二



布施英利

諏訪敦  
◎中川真人

永井龍之介

応募点数272点、応募者数197名のなかから厳正な審査の結果、大賞1名、優秀賞2名、各審査員賞5名、入賞7名、入選35名、計50名が選ばれました。このうち入賞以上15名の作品を展示し、画廊HPには入選以上50名の作品を掲載します。新しい審査員が加わり、応募サイズが100号以内から30号一律に変更し、内容を一部リニューアルしたことで、5回目となる本公募展は一新された内容になりました。尚、上位3名は一年後以後に特典として各個展を開催します。



第一選考終了



審査中



審査中



各賞決定

＜主催・問い合わせ先＞

「公募—日本の絵画 2020—」事務局

〒104-0061

東京都中央区銀座8-6-25河北新報ビル5F 永井画廊内

TEL/ 03-5545-5160 FAX/ 03-5545-5180

E-mail/ info@nagai-garou.com

https://www.nagai-garou.com



大賞/ 岩崎 拓也 「秘密の花園」 65.2×91cm 油彩

優秀賞/ 久住 敏之 「祈り」 F30 油彩

優秀賞/ 宮下 由夫 「王冠」 91×91cm 油彩

千住博賞/ 林 寿朗 「風の聖域」 91×91cm/S30 油彩、テンペラ、混合技法

山下裕二賞/ 村山 建司 「山里」 90.9×72.7cm 油彩

布施英利賞/ 久保田 敬一 「自然」 91.2×73.1cm 油彩

諏訪敦賞/ 金澤 隆二 「管理区域」 65.2×90.9cm/P30 油彩

永井龍之介賞/ カノウ ジュン 「I'm here. 06/17/2020」 91×65.2cm 版画

入賞/ 河崎 春代 「もりびと」 73×91cm/F30 油彩

中島 慎一 「風景 (光陰)」 91×91cm アクリル

船越 多美子 「日渡る II」 90.9×72.7cm 油彩、テンペラ

笹岡 勇 「Clean forever (温暖化と異常気象・新型コロナウイルスの発生

—美しい地球は?)」 72.7×91cm 油彩、アクリル

「芸」 90.9×90.9cm アクリル

「橋」 80×110cm ペン、色鉛筆

「Homecoming」 91×60.6cm 油彩

入選/

田中 裕史 「おみやげ、どれにしようかな。」 90.9×65.2cm/P30 アクリル

多田 耕二 「故郷の風景」 91×91cm 油彩

田中 基之 「かがよふ」 72.7×91cm 油彩

平山 修 「2020年 団快」 91×72.2cm/F30 アクリル、水彩、鉛筆

小林 義純 「草花図'20-1201「野薊」」 91×91cm アクリル、ミツロウ、和紙

築山 佳民 「愚者の船」 65×91cm 油彩、テンペラ

吉岡 幾哉 「悠然景図」 90.9×90.9cm 油彩、アクリル

上杉 秀明 「つねならむ」 91×72.7cm アクリル

奥山 拡央 「オイティプスとスピックスの物語」 90.9×90.9cm 油彩

飛田 良宣 「室内」 95×64cm/M30 油彩

小畑 亮平 「Circles」 91×91cm 油彩

富田 淳 「ここから」 91×72.7cm アクリル

斎木 敦智 「人形の部屋にて〜日々〜」 60.6×90.9cm アクリル

後藤 美鈴 「Sofa #2」 43×99cm 油彩

清水 潤二 「移ろいの風音」 60.6×91cm 油彩

西沢 明子 「サークルフラワー 横」 72.7×90.9cm 油彩、テンペラ

阿部 良広 「海への想い (三陸)」 90.9×65.2cm 油彩

大森 隆史 「道」 91×72.7cm 岩絵具

八木原 由美 「薄明の時」 72.7×91cm 油彩

玉川 宗則 「From a corner of Asia」 91×91cm アクリル

野口 広美 「香の聲を聴く」 72.7×91cm 油彩、アクリル

大庭 明美 「樹影—きざし」 91×72.7cm 油彩

木村 凜 「Dots-4」 91×91cm/S30 アクリル

政井 亜子 「春の色」 91×72.7cm アクリル

Nelson Hor Ee Heng 「僕の静脈には君が生じ茂っていた。」 91×91cm 岩絵具

鈴木 直樹 「記憶の断片」 72.7×91cm 油彩

鍵本 大 「I am」 91×72.7cm 油彩

佐々木 和代 「金春夏」 72×91cm 鉛筆

水津 裕 「ハーモニ—」 65×91cm 油彩

KIM JI WON 「blooming」 91×60.5cm 水彩、色鉛筆

三代 宏大 「情景 1」 91×72.7cm 油彩

王夢石 「祈りのノリ (一)」 91×60cm 岩絵具

渡邊 智美 「Imagine 2」 90.9×60.6cm/M30 アクリル

久田 琳佳子 「家」 72.7×90.9cm 油彩

日比 さつき 「蔓む苦瓜」 72.7×91cm 油彩

(表記は受付番号順です。)

## 入賞 作品展

2021年  
3月5日(金)–13日(土)

10:00–18:00 日曜休廊

会場/ 永井画廊

【テーマ】 自然・人間・自然と人間

【審査員】

千住博(画家) 山下裕二(美術評論家) 布施英利(美術評論家)

諏訪敦(画家) 永井龍之介(永井画廊)

【応募資格】 不問

【協賛】 画材メーカー各社

オリオン/クサカベ/クレサンジャパン/ターナー色彩/名村大成堂/  
パニーコルアート/ホルベイン画材/松田油絵具/ミューズ/アーティストスペース

※入選者はお名前のみで、作品展示はございません。  
当パンフレット、画廊HPには各々作品画像を掲載します。



# 公募 2020 日本の絵画



優秀賞



宮下 由夫 「王冠」91×91cm 油彩

大賞



岩崎 拓也 「秘密の花園」65.2×91cm 油彩

優秀賞



久住 敏之 「祈り」F30 油彩

千住博賞



林 寿朗 「風の聖域」  
91×91cm/S30 油彩、テンペラ、混合技法

山下裕二賞



村山 建司 「山里」  
90.9×72.7cm 油彩

布施英利賞



久保田 敬一 「自然」  
91.2×73.1cm 油彩

諏訪敦賞



金澤 隆二 「管理区域」  
65.2×90.9cm/P30 油彩

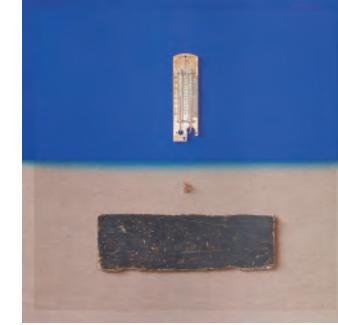
永井龍之介賞



カノウ ジュン  
「I'm here, 06/17/2020」  
91×65.2cm 版画



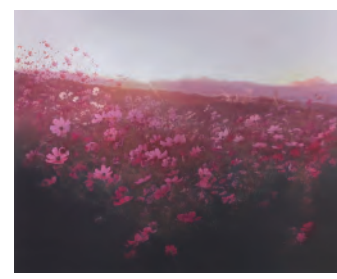
河崎 春代 「もりびと」  
73×91cm/F30 油彩



中島 慎一 「風景(光陰)」  
91×91cm アクリル



船越 多美子 「日渡るII」  
90.9×72.7cm 油彩、テンペラ



笹岡 勇 「Clean forever」(温暖化  
と異常気象・新型ウィルスの発生ー美しい地球は?)  
72.7×91cm 油彩、アクリル

入選



勝倉 大和 「芸」  
90.9×90.9cm アクリル



田中正 「橋」  
80×110cm ペン、色鉛筆



三平 浩太 「Homecoming」  
91×60.6cm 油彩

入賞



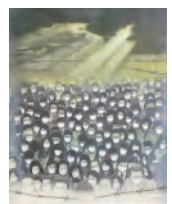
田中 裕史



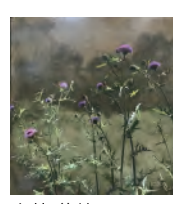
多田 耕二



田中 基之



平山 修



小林 義純



築山 佳民



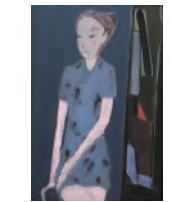
吉岡 幾哉



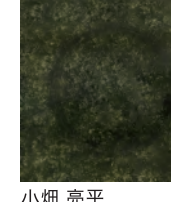
上杉 秀明



奥山 拓央



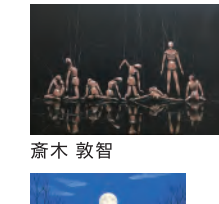
飛田 良宣



小畑 亮平



富田 淳



齋木 敦智



後藤 美鈴



清水 潤二



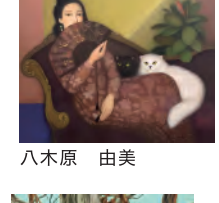
西沢 明子



阿部 良広



大森 隆史



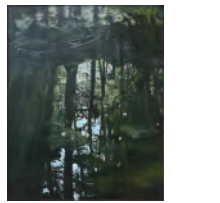
八木原 由美



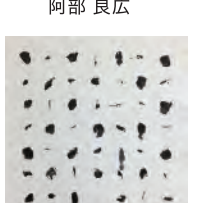
玉川 宗則



野口 広美



大庭 明美



木村 凛



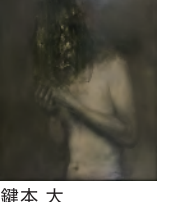
政井 亜子



Nelson Hor Ee Heng



鈴木 直樹



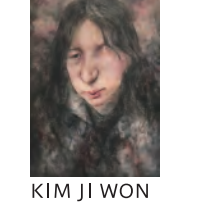
鍵本 大



佐々木 和代



水津 裕



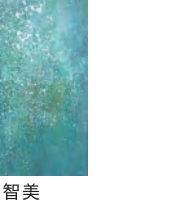
KIM JI WON



三代 宏大



王夢石



渡邊 智美



久田 琳佳子



日比 さつき